

令和7年度 京都府立大学 一般選抜試験（後期日程） 入学者選抜学力検査 「歴史」（歴史学科）

○出題意図

1

老中田沼意次による幕府の政治と社会変容に関する歴史事象を把握しているかを問う問題である。(1) 幕府財政の再建に際して、株仲間を公認し運上や冥加を増加させ、金銀通貨の統一を図り、貿易や新田開発政策を積極的に行ったこと。(2) 対外政策では、蝦夷地の開発やロシアとの交易の計画したこと。(3) 地域社会における地主と小作の成立と対立、天明の飢饉の発生と影響、それらによる田沼政治の終焉などを関連付けながら、その過程・関係性を正確に理解できているかどうかを採点基準とした。

2

1980年代から90年代初頭にかけてのソ連の崩壊を中心とした国際状況を把握しているかを問う問題である。採点基準としては(1) 時系列的に正確に事態の推移を把握しているか、(2) ゴルバチョフの開放政策がソ連邦の解体と冷戦の終結を促したこと、(3) いわゆる「東欧革命」、東西ドイツの統一、(4) ソ連、東欧の開放に対する反動としての「天安門事件」、未だに冷戦構造が維持されている韓国と北朝鮮の状況などが相互に関連付けて論述できているかを採点基準とした。

3

本問は、歴史学科志望の受験生に限定した問題である。ある特定の地域・時代にかかわる歴史事象を、字数制限を設けずに論述させることによって、その理解度および文章表現力を試すことを目的とする。光緒帝が康有為らを登用して戊戌の変法を行ったこと、急激な改革に対して西太后ら反対が光緒帝を幽閉して、改革が失敗に終わったこと、義和団戦争の敗北によって改革の機運が高まり、行政機構や科挙の廃止による学校制度、近代化軍隊の整備などに加えて、憲法大綱が示され、国会開設が公約されたが、改革はさまざまな問題を引き起こしたことなどを、手がかりとなる語句を示して理解を問うた。以上のような点を中心に、語句の正確な理解、史実経過に対する的確な把握、論理的な説明を含めて評価を行った。

4

本問は、近代の幕開けの一つに位置づけられる宗教改革のドイツにおける展開について理解ができているかを問うた。ルターによる「95か条の論題」の提示が行われた背景と直接的な契機、ルターの救済論の特徴、教皇や皇帝が有効な対処をできなかった事情、改革理念の社会各層への広まりと支持、とくに農民の運動とその結果、さらに新旧両派の緊張の高まりと帰結としてのアウクスブルク宗教和議およびその影響、以上について手がかりとなる語句をもとに事実関係の正確な把握と論述ができているかを評価した。